

各国森林概況

各国の森林・“SATOYAMA”と文化
(海外の受講生、日本の受講生による発表と意見交換)

日時：平成20年8月31日（日） 10:00～15:00
講師：竹中 千里・木平 英一（あいち海上の森大学コーディネーター）

概況



《事例発表》

海外の受講生3名、日本人受講生6名の方に森林や里山に関する発表をしていただいた。

発表タイトルと発表者は、

“フィリピンの森林についての紹介”(Maldia Lerma San Jose)

“タイの森林、タイの文化とバナナ”(Tithipongtrakul Nontachai)

“中国の森林保護”(孫 偉)、“これからの森林管理 ～人工林の管理を中心に～”
(鈴木実句)

“海上の森への想い”(後藤眞利)

“私の「里山文化」イメージ”(中林めぐみ)

“島田緑地”(長谷川 博)

“海上の森と海上の森の会の活動”(藤野昌之)

そして

“薪と森”(大学コーディネーター 木平英一)。

《全体意見交換》

「海外の森林と日本の森林との比較」という観点から、大学のコーディネーターである竹中千里氏(名古屋大学大学院教授)と木平英一氏(前名古屋大学助教授)の進行により全体意見交換を行った。

Q. 薪を燃料として利用しているか。

- ・中国: 北部の森林地帯では薪を利用するが、一般に燃料は主にガスや石炭に依存している。
- ・タイ: 都市部における燃料は電気やガスである。
- ・フィリピン: 農村部では炭を使用する。マニラではガスを使用するが、炭も使用される。

Q. 木平氏の発表以外に日本国内で薪を燃料として使用している事例はあるか。

- ・森のようちえんでは、煮炊きで薪を使用している。
- ・自宅の庭先で伐採した枝葉の処理(敷地内での焼却、可燃ごみ)に苦慮している。

Q. “agroforestry” という言葉が事例発表のなかであったが、森林の近くに住む人はどのように森林を利用しているのか。

- ・タイ: 落葉を肥料として用いる。昆虫を食べる。
- ・フィリピン: 北部では農業が、南部では漁業が盛んである。
- ・中国: 里山文化について知らないのでコメントできない。
- ・山村住民からすると、都市部の人には積極的に山に来てもらいたい。

Q. 日本において若い人が山で仕事をするためにはどうしたらよいか。

- ・住宅環境の整備と十分な給料の確保が必要。
- ・幼児期から“森のようちえん”のように、森林に触れることが大切。

Q. 環境税について

- ・中国: 植林が義務化されており、植林が困難な場合には、代わりに政府に税金を支払う。
- ・フィリピン: “green tax” がある。
- ・石川県では、環境税を導入し、過疎地での間伐補助に当てている。
- ・山を持続的に管理するためには、政治的な仕組みづくりが必要である。